

## 袋井市教育委員会 会議録（要旨）

会 議 名	令和 5 年10月 袋井市教育委員会 定例会
招 集 日 時	令和 5 年10月27日(金)午後 1 時30分
会 議 時 間	午後 1 時30分から午後 3 時50分まで（2 時間20分）
場 所	教育会館 3階 I C T 研修室
出 席 者	鈴木一吉 教育長 鈴木万里子 委員 溝口知秀 委員 吉田陽子 委員 (計：4 人)
欠 席 者	大谷純應 委員
傍 聴 者	無し
当局出席者	石黒克明 教育部長 山本裕祥 教育監 山本 浩 教育企画課長 小鷹義晴 おいしい給食課課長 杉山明子 子ども未来課長 小澤一則 育ちの森所長 神田明治 学校教育課長 中村悟史 魅力ある部活動推進室長 大庭尚文 生涯学習課長 小久江暁子 袋井図書館長 白澤 崇 歴史文化館長 松井健尋 教育企画課主幹兼教育総務係長 (計：12人) (合計：16人)
会議に付した 事 件	別紙「令和 5 年10月 袋井市教育委員会定例会 議事日程」の とおり

令和 5 年 10 月 袋井市教育委員会定例会 日程  
会 議 日 程

日程第 1 開 会

日程第 2 会議録署名委員の指名

日程第 3 会議録の承認

日程第 4 教育長報告

日程第 5 教育部月例事業報告

日程第 6 議 事（会議に付すべき事件）

（1）協議事項

協第16号 令和 6 年度（2024年度）の教育施策の重点方針

（2）報告事項

報第119号 幼小中一貫教育の認知度について（令和 5 年実施市民意識調査結果より）

報第120号 令和 5 年度第 2 回部活動地域移行推進協議会の開催結果について

報第121号 文部科学省「令和 4 年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」袋井市の状況（調査結果の概要）

報第122号 令和 6 年 袋井市はたちの集いの開催について

報第123号 （仮称）袋井市こども交流館あそびの杜基本計画の策定について

報第124号 歴史講演会〈鳥居信平・三浦環〉の開催について

日程第 7 意見交換

社会の変化に対応したコミュニティセンターでの社会教育事業の実施方法について

日程第 8 その他

（1）連絡事項

ア 障がい者の文化活動の促進について

イ 青空図書館の開催について

（2）次回定例会等の予定について

11月教育委員会定例会

11月15日（水）午後 1 時30分～ 教育会館 3 階 I C T 研修室

（3）その他

日程第 9 閉 会

## 1 開会

### ●教育長

## 2 会議録署名委員の指名

### ●教育長

鈴木委員 と 吉田委員 を指名

## 3 会議録の承認

### ●教育長

9月の定例会の会議録については、承認

## 4 教育長報告

### ●教育長

資料に基づき、主な内容を報告

## 5 教育部月例事業報告

### ●各課長

資料に基づき、各課長から主な事業を報告

## 6 議事

### 【協議事項】

協第16号 令和6年度（2024年度）の教育施策の重点方針

### ●教育企画課長

資料に基づき説明

[質疑・意見（要旨）]

### ●教育長

この方針については、教育委員会の中で局議の中で話しました。もともと私が原案を作ったものをどうかということで、みんなで協議をしました。溝口委員から課題等について、ぜひご発言をお願いします。

### ●溝口委員

はい。たまたま17日ですか、ある中学校に見学に行かせていただきまして、ありがとうございました。その中で最初に校長先生が言ったのが、今、メンタルで2人休んでいる。それから、もともと採用が2人予定に達してない。そこで4人足りなくて、苦勞してるという話をされました。その後、ほかの先生方3人と話しをする機会があったんですけど、その中でもやっぱりやりくりで苦勞しているっていう話がありました。それを見たものですから、この1ページ目というか、最初のところの小中学校のところにですね。学校の先

生、教員が足りない云々という、そういう現状と課題というのが入ってなかったの、これはどうなのかなってというのが、ちょっと気になった次第です。この中学だけの問題ならまだね。この中学は困っているの、そこはなんとかしなければいけないのですが、ほかの小中学校の状況もわかって、あまりにもやっぱり問題であるのであれば、例えば採用は県の仕事だというのは分っているんですけども、それでもやっぱり袋井の現場の方で困っていれば、袋井の教育委員会としてもなんか目標立てて、少しでも助けていかなきゃいけないんじゃないかなというところでちょっと質問というか意見させていただきました。

### ●教育長

ありがとうございます。はい、事務局。

### ●学校教育課長

補足資料に基づき説明

### ●教育長

教育監ぜひ。教育監が一生懸命欠員のことをやっているの。

### ●教育監

市の対策としては、なるべく教職は面白いことを、中学生とか小学生にも感じさせることがまず第一だと思っています。長期的なところで。あとは、職場体験でも学校にも職場体験に行きます。大学生のボランティアも小中学校に入ってますので、そういったところで教職の良さを少しずつじわりじわり伝えていく。ただ、袋井市の致命的なところは、袋井市在住の教職員が少ないことです。磐田は磐田市内だけで大体補っています。森も少ないので、袋井・森地区に住んでいる教職員が少ないところが、なかなか補い切れない原因です。袋井市に勤めている方は、掛川からの方もたくさんいます。愛野が開発されましたので、愛野からの職員がたくさんいます。ですから、袋井市の中学生が教職員、教員になって戻ってきてくれるのが一番の対策かなというふうに思っています。具体的などころでは、学生ボランティアを募集して、実際に学校に入る機会をふやすように、今学校教育課を中心に進めています。講師も入っていますので、その仲間に袋井市は教員採用試験の勉強会を開いて、いろんな施策をしている、ということがわかるようになるべく広めてもらい、大学生も勉強会に参加できるようにしてきているので、少しずつ教職を目指そうっていう大学生が来てくれるようになっています。受かった方もたくさんいるので、受かった方は参加でしませんが、残念な結果だった時、また続けて袋井市でやろうかなっていう思いを持つ方を1人2人増やしている状態です。大学にも掲示板に袋井市の募集ポスターを張って呼びかけています。もちろん、その横には磐田市も貼ってあったり、焼津市も貼ってあったりするんですが、それを見た市内や近隣の大学生が来るようになっている状況です。一番困るのは、教員がいなければたくさん新採を入れれば欠員が解消されるかというと、そういうことではなくて、産育休があるので、どうしても教職の世界では講師が欲しいんです。毎年、教師になりたいっていう思いを持って、大学を降りた時から教師を目指す方たちがたくさん現場にいないと回していけない状態なのです。大学から出たときに一

般企業への就職を辞めて、教職に就きたいという気持ちを持ち続ける人が増えていかないことには欠員がなくならないと思っています。ちょっといろいろなことを言ってしまいましたが、多くの要素が絡み合いながら、今現状があるので、それを少しずつ長期的に解決していかなきゃいけないと思っています。校長にはとにかく袋井市勤めている職員全員で探すっていう感じじゃないと欠員解消は難しいですよっていうことを毎年呼びかけています。

#### ●溝口委員

ありがとうございます。すごく問題として見てくれているのはよくわかりましたけれども、結局何年間も多分同じ状況なのですよ。やっぱり、今世の中人がいませんし、多分教職員だけじゃないんですよ。だけど、だからしょうがないんだと、結局何もやらないと一緒なので、もし可能であれば、現状のところに入れてもらって、何かそういう手法でも掲げてでもやらないと、多分毎年同じ動きしかできないんじゃないかなっていうふうに思いました。その辺もし考えていただけるなら考えてほしいです。

#### ●教育長

ありがとうございます。多分至らない点もあったと思うので、ぜひこの中に取り入れて、市としてもできることは多分あると思うので、今のやり方がいいかどうかっていうことは、どれだけ成果が出ているかっていうことを問わなきゃいけないので、成果が出ていないようなら、違うやり方とか、もっと新しいやり方とかっていうことになるので。そこは考えなきゃいけないかなと思います。どうでしょうか。それに関してでも、他のことでもいいですが。

#### ●教育監

保育士も一緒ですよ。

#### ●教育長

幼稚園も重要な案件ですね。

#### ●溝口委員

前は幼稚園ばかり言っていましたけど、小学校中学校も一緒でした。

#### ●教育長

今、幼稚園の保育士の方、言いますけど、二次募集を今かけていて、今3人経験者の方が袋井市の試験を受けてくれることになっているので、その3人の方が入っていただければ、前回は6人なので、今年度は9人。最初の募集の時に6人の方が受かっているのです。できれば、9人ぐらい入っていただければ、一息っていうわけにはいきませんが、今よりも少し充実するかなと思っています。それは、子ども未来課で、至るところに声をかけていただいて、ようやくあの集まってきたということなので、少しずつですけども。他にはどうですか。その関係でもいいですし、この重点方針等についてのご意見があれば。

## ●吉田委員

別の話なんですけど、重点方針2の不登校対応のところ、早期発見・対応から復帰支援までの組織的な対応と家庭に対するアウトリーチ型支援の充実っていうのはすごくいいと思うんです。これは、学校という既存の枠にうまくはまれない子への対応がメインだと思うんですけど、学校自体ももう少しあの柔らかくなるって言うんですかね。学校に行きたくなるような学校づくり。そういったところを目指して欲しいなと思ってます。実は、文科省が調査したところ、不登校の原因の50%は、子どもの無気力不安という調査結果が出てたと思うんですけど、昨日の夜見つけて、千葉県のスリースクール等連絡協議会のアンケートによると、子供たちが行きづらくなったきっかけの一番上に、先生のことってあるんですね。その次は、友達のこと、身体的な不調で、その次にカリキュラムが合わないと感じたということが来ていて、また保護者に対して、子どもがどうして行きにくくなったかっていうところの調査だと、やっぱり一番は先生のこと、2番目は先生が誰かを怒るのを見るのがしんどかった。3番目がカリキュラムが上がるっていうことで、主に学校のことっていうのが、行きづらくなったきっかけとして挙がってるんですね。そういうことを考えると、もちろんその適用できなかった子への対応は大事なんですけれども、学校自体も変わっていく必要があるんじゃないかなと思って、袋井市としてその辺を重点的にやっていただけたら嬉しいなと思いました。

## ●教育長

はい、ありがとうございました。国で言っているのは、実は教育支援センターを学校内でも作りましょうという方針が出されています。おそらく子供たちが学ぶカリキュラム的なものも、もっと弾力的になってもいいんじゃないかという趣旨かなと思います。不登校の特例校っていうのが、今、全国で何箇所かできていますけれども、そこもおそらくカリキュラムは7割程度に抑えましょうということで、しかも自分たちで選べるようなカリキュラムを作りましょうみたいな話になっています。ある意味、学びをもう少し緩くしてもというか、自分で選択できるっていう形が、一つの方法としては、あり得るのかなと、確かにそう思います。先生方は、やっぱりぎっちりカリキュラムをつくるもんですからね。受け入れの度量を少し優しくしてあげるってことが非常に大切かなと思います。

## ●学校教育課長

各学園で、子供たちの自尊感情とか自己肯定感、自己有用感を上げていこうということで、ずっと取り組んでいるところではあります。あやぐも学園では、ボイスシャワーに取り組んでいますし、あと浅羽学園の方は「認めて任せる」ということに取り組んでいます。校長さん達からは、具体的にどの場面でどういうふうにしてやるのが効果的なのかというところを踏み込んで行かないとダメだなという声がたくさん聞かれるんですね。学校も、ただそういう理念的なところだけじゃなくて、具体的に効果が得られているかどうかというところも、きちんと見ながら、より具体性を持って推進していこうと今取り組んでいるところです。そこを市教育委員会としても助言しながら支援をして進めていきたいなと思っています。カリキュラムについても、やっぱり弾力的にもう少し不登校、また

は、しぶり傾向のある子どもたちが通いやすいようなカリキュラムというものも研究していく必要があるかなと、今お話聞いていて思いました。場所的にも、子供たちが居場所になるような場所をたくさん作ってあげたいなと思うんですが、そこも学校によってなかなかないので、ちょっと難しいなということは、校長さんたちも頭を悩ましているところではあります。ただ、どの学校も、そうは言っても場所を確保する事と、人をあてて、子供たちにきちんと対応できるような体制を組んでいこうと今、それぞれ取り組んでいるところでもあります。ありがとうございます。

#### ●教育長

はい。他にいかがでしょうか。鈴木委員、どうですか。

#### ●鈴木委員

今、吉田委員が言われたことって、とても大事だし、ぜひ未来の学校として、そういう姿になりたいなあって思います。重点方針は、どれもそのとおりだし、それぞれの指標もあるんだけど、じゃあ総体としてとか、学校がどのくらいできるかなっていうところも、もっと柔軟に横断できないかというか、いろんな意味で考えていく必要っていうのもあるし、袋井の特色を出してくるのもいいかなって思います。最初の欠員のところで、袋井在住の教員が少ないというのは、私は、ちょっと衝撃でした。やっぱり、先生になりたいっていう思いを持たせるような、小中学校の教育というものを、ぜひして行きたいし、憧れに思ってもらえるような。やっぱり、そこをやっていくといろいろ解決してくるかなって思うので、子供達に柔軟になることを考えられるような、具体的にはどうかわからないんだけど、そんな夢を描いてもいいし、市としても描いても良いし、学校としてもぜひ描いてほしいなあっていう気がします。

#### ●教育長

はい、ありがとうございます。毎年こうやって重点方針的なものを決めていて、やっていくことが必要かなと思いつつも、ある意味、そんなに課題がすぐに解決するわけじゃないんで、そんなに毎年変わるわけじゃないんですね。大きな項目っていうのは、ずっと課題になってしまっている。解決すれば一番いいんでしょうけども。やっぱりそこに力を入れてやって行くってことは必要だと思うので、是非先ほど溝口さんから出された欠員のことについては、この中に入れ込んで、指標的なものがどうやって立てられるかわかりませんが、少し取り組みの中として、やっぱりそこは県任せではなくて、市としてどういうことができるかということは、入れ込む方向で検討して行きたいと思います。よろしいですか。はい、ありがとうございました。

#### ●教育長

原案どおり、承認します。

#### 【報告事項】

報第119号 幼小中一貫教育の認知度について（令和5年実施市民意識調査結果より）

## ●教育企画課長

資料に基づき説明

### [質疑・意見（要旨）]

## ●鈴木委員

年々、認知度が下がっているっていうところが、なぜかっていうところを、やっぱり追求していかなきゃいけないかなと思います。広報とか、ここの考察であるように、コードモンであるとか、さっきちょっと出た横断幕、どこの学校も貼ってあると思うんですよね。だから、そういう意味では、広報はされているんだと思うんだけど、袋井のやっている幼小中一貫教育とは、具体的にどういうことなのかとか、あのどういうものをイメージしてるかって言うところが、やっぱり認知されて行っていないから、下がってるんじゃないかなって思います。なんで、下がるのかなと思うんです。掲示だとか、電話も今掛ければ必ずなんとか学園の何とか小学校とか中学校とか幼稚園とかって言って、そういう面で耳にはすると思うんですけど、でもこういう所に表れてこないんですね。やっぱり本当に浸透させていくなら、考えていく必要があるかなって思います。

## ●教育企画課長

そうですね。言葉としてというよりも、やはり何をやってるかっていうところに、重きを置く必要があるのかなと思います。鈴木委員のおっしゃる通りですね。もう少し深堀した中で、ピンポイントで何か対策を打てるのであれば、考えていきたいなと思います。

## ●教育長

おそらく、横断幕とか出しても目に入っていないですね。見ようとしないと認識しないですから。なんとか学園と言われたって、幼小中一貫教育が分かるはずがないという感じです。前に、高南の高齢者学級に行って、袋井の教育を話してほしいということで、話したんですが、幼小中一貫のことをやっていることって、ほとんどの方が知らなかったんです。だからやっぱり機会あるごとに出かけていったりして、そういう学級とかを通じて話をし、こういう事やってるんですよ、みたいなことをちゃんと言っていないといけないかなというふうに思ったんですね。そういう方たちは、たぶん口コミ力がすごいので、みんなに伝えてねって言うと、多分伝わってくると思います。学校給食もそうなんですけど、給食日本一ですごいことやってるっていうことも、ほとんど知られてないので、直に話をする機会を増やしていかないと、皆さんの心に落ちて行かないかなっていう感じですね。だから、そういう取り組みを少し加えた方がいいかなと思います。広報とかSNSとかの媒体だけでは行き届かないかなと思います。卒業生はどんどん増えてるんで、本当は増えていいはずなんですけど。

## ●吉田委員

なんで減るんですかね。



●鈴木委員

そうなんですよ。

●教育長

逆ですもんね。普通だったら増えていいはずですよ。関係者がどんどん増えて行ってるんですが。取り組みを少し工夫したいと思います。ありがとうございます。

報第120号 令和5年度第2回部活動地域移行推進協議会の開催結果について

●魅力ある部活動推進室長

資料に基づき説明

[質疑・意見（要旨）]

●溝口委員

中身と関係無いかもしれないですけど、ある中学へ行った時にある先生が、この部活動の件について情報が少ない、っていう言い方をしてたんですよ。少ないのか、情報を取りに行けていないのか、その辺はよく分からないですけど。なかなか情報が伝わってない先生がどうもいるみたいですので、基本的には自分で調べに行かなければいけない話かなと思ってんですが、そんな意見があったことだけお伝えしておきます。

●魅力ある部活動推進室長

はい、ありがとうございます。一応、自分たちの方からも発信しているものがありまして、それは、もちろんホームページ等にも掲載しているんですけど、学校宛てにも、同じように出していて、データで多分、学校の職員の所に行っているはずなので、それを見ていただければ、ある程度、進捗状況は分かっているのかなと思いますが、実際にそういった意見が出されるということは、皆さんに伝わってない部分もあるのかなと思いますので、今後考えていかなきゃいけないかと思います。

●溝口委員

難しいですけどね。興味がないかもしれないし、自分があんまり関係しないかもしれないし、忙しいかもしれない。その辺そこまで深く聞いてないんですから、そういう話があったということだけ、お伝えさせてください。

●魅力ある部活動推進室長

興味がないってことはないと思います。かなり興味があると思うんですが、ただ、自分たちも発信しているところ、皆さんに伝えるって言うところの部分はかなり課題があるのかと感じていますし、どうすればみんなに伝わるのかっていうことは、やっぱり考えなきゃいけないのかと思います。先ほど教育長がおっしゃっていましたが、いろんなところ

でやっぱり話をして行く必要があるのかなっていう感じはしています。今はどちらかというところといった競技に関係するスポーツ少年団といったところに足を運んで話をしているんですけど、なかなか地域の方々まで話をしていくというところまではやっていないので、今後検討が必要かもしれません。いろいろ考えてみるところがあるなと感じております。

## ●教育長

はい、ありがとうございます。これから種目ごとに検討の場を設けていくので、受け皿がどういった場ができるかっていうのがすごいポイントなので、種類ごと種目ごとに検討していかなきゃいけない。あと、経済的困窮世帯にどういう支援をするかっていうのは非常に難しい問題なので、それはまた協議会でも話しますし、教育委員会でもお話をさせていただきたいと思います。

## 報第121号 文部科学省「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」袋井市の状況（調査結果の概要）

## ●学校教育課長

資料に基づき説明

[質疑・意見（要旨）]

## ●吉田委員

一枚目の参考1の小学校暴力行為の件数で、令和2・3・4と上がってるのは、コロナが落ち着いて距離が近くなってということのもわかるんですけど、その前の平成29年から30年かけて、ガンと上がってそこから高止まりのようになっている要因が、もしわかっていたら教えていただきたいんですが。

## ●学校教育課長

そこまでは分かっていないんですが。

## ●吉田委員

そうなんです。心に余裕があれば、たとえ接触機会が増えたって暴力行為が増えないと思うんですよね。なので、そこだけじゃなくて、もっと違う理由もあるんじゃないかなと感じました。

## ●学校教育課長

そうですね。昨年度から本年度にかけて、倍に増えていくっていうところも一因かなと捉えているところで、吉田委員がおっしゃる通り、それが全てではないなというふうに思います。こういった行為を起こしているお子さんの中には、特性を持ってるお子さんもたくさんいますので、そういった子供達に適切な対応ができてないというところも、一つ課題としてはあるかなと捉えております。これは件数なので、人数というわけではないので、

同じ子がやっている場合もあります。

●教育監

止まらないでずっと増えていくので、そこはやっぱり課長が言ったように、対応によって二次障害的になってしまっているところがあると急激に数が増えるので、そこをもっと分析して追ってみないとわからないと思います。

●学校教育課長

いずれにしても、適切な対応がやはりできてないということかなと思ってます。

●教育長

ほかに、どうでしょうか。

●溝口委員

いじめの発見のきっかけアンケートは、重要だとわかるんですけど、今、これだけスマホとかタブレットとかある中で、子供が直接、担任の先生だけ、あるいは担任の先生が嫌だったら別の先生なり、学校が嫌だったら教育委員会なりに行って、直接訴えるっていうツールってあるんですけど。なかなか、例えばアプリで、誰にも知られずに、こういういじめがありましたとか、いじめられてますとか、そういう情報を流すツールっていうのがあるんですか。なかなか個人で、直接先生と一対一でそういう連絡取るっていうのは、別の面で難しい問題があると思うんですけど。

●学校教育課長

市の方では、いじめホットライン、いじめホットメールというのもセットしていますし、県の方も。

●溝口委員

あれは電話でしたっけ。メールもあるんですけど。

●学校教育課長

市はメールと電話があります。

●吉田委員

周南中ではアプリを使って、心の状態とか答えられるんですけど、それを誰に伝えたということも選べるらしくて、心を直接把握しようという取り組みが始まっていると聞いています。

●溝口委員

なかなか言いづらいけども、メールなり、ラインなりで、そういうアプリだったら言える子も、今だったらいるかもしれないなあと、そういうのがあれば安心しました。

### ●魅力ある部活動推進室長

学校によっては、担任の先生だとか、生徒指導の先生だとかに直接いたりとか、そういったものをタブレットでやってるところもあります。

### ●吉田委員

ロイロノートをみたら、アプリでSOS的なようなものがあつたような気がしなくはないですが、子供達が認知しているかどうかはちょっと怪しいかなと。

### ●学校教育課長

子供によってメールでやれる子もいれば、日記で発信する子もいるなど、いろんな子がいます。先ほど説明しましたが、小学校はアンケートで、小さなことから大きなことまでいっぱいあがってくるんですけど、中学校はちょっと違うような状況で、ただどの子も何らかの手段を使って、自分の気持ちを発信できるような機会を作っていくことが大事だと思って思っていますので、そういったところを意識して各学校も今取り組んでいるところがあります。ただ、最近校長さんと話をするのは、例えば端末を手立てとして活用したとしても、これはあくまでツールだということ。この手段を入れたので、いじめがなくなるとか、子供の心配が無くなるとか、そういうものではなく、つまるところ、教師と子どもたちの人間関係が最も重要で、教師が一人一人の子供たちの様子をきちんと察知する力っていうのは大事だねと。だから、コミュニケーション力を教師も身に付けて、子供たちに日々接するところが、一番基礎だよねっていうところは話をしているところです。あくまでアプリ等はツールとしていろいろセットしていこうかなと思います。

### ●教育監

いろんなところで、お話ししたかもしれませんが、いじめの被害者がでたところで、先生が気付くのではなくて、加害者のところが一番原因で、初めからいじめをする子、したい子はいないんですよ。加害者となるその子が満たされない心を持っているから、いじめという行動をおこすのです。加害者になりうる子供たちのところに、教師がこの子なんか不満を抱えていそう、何かもやもやしてるなって感じた時に寄り添ってやらないと、現象としていじめが起きるのです。友達をいじめたくなってしまう、やるせない自分のありようをぶつけてしまう、無意識のうちにそうなっちゃう子もいるんですけど、そのところを担当が見つけるように頑張ってるって言うこともあるのです。そこをやらないで現象だけを追って行っても全然解決にならないことが多いのです。満たされない子供たちがその気持ちを抑えきれずに、非社会的とか、反社会的な行動に行くんですけど、反社会的なところがイジメになる可能性が大きいのです。子供一人一人の心が満たされているかどうかを寄りそって見ていくってことがこれからより求められ、大事になってくるかなと思います。

### ●教育長

よろしいですか。はい、ありがとうございます。いずれにしても、学校現場の課題です

ね。子供たちの課題になるので、どうやって対応していくかっていうのは、継続して取り組んでいくことになろうかと思います。

## 報第122号 令和6年 袋井市はたちの集いの開催について

### ●生涯学習課長

資料に基づき説明

[質疑・意見（要旨）]

なし

## 報第123号 （仮称）袋井市こども交流館あそびの杜基本計画の策定について

### ●生涯学習課長

資料に基づき説明

[質疑・意見（要旨）]

なし

## 報第124号 歴史講演会〈鳥居信平・三浦環〉の開催について

### ●歴史文化館長

資料に基づき説明

[質疑・意見（要旨）]

なし

## 7 意見交換

社会の変化に対応したコミュニティセンターでの社会教育事業の実施方法について

## 8 その他

### （1）連絡事項

ア 障がい者の文化活動の促進について

イ 青空図書館の開催について

### （2）次回定例会等の予定について

11月教育委員会定例会

11月15日（水）午後1時30分～ 教育会館3階 ICT研修室

### （3）その他

## 9 閉 会

（午後3時50分閉会）